

開催日：令和2年12月14日（書面審議）

出席委員：（承諾書提出者 委員8名中7名提出）

大塚ゆかり部会長、畠山和男委員、千野由貴子委員、板山俊介委員、越水眞澄委員、  
小林正治委員、神吉まゆみ委員

議 事：

1 計画部会の委員の変更について（報告）

事務局：委員1名の退任に伴う、新任の委員1名の報告を行った。

2 「甲府市障がい者福祉計画」について（審議）

計画目標・施策体系案

事務局：計画目標・施策体系案について、以下の3項目について説明を行い、事務局が示した計画目標・施策体系案で次期計画を策定することについて各委員から書面にて承諾を得た。

1. 障がい者福祉計画の経過と目指すべき姿
2. アンケート及び関係主体ヒアリング結果まとめ
3. 次期計画の策定ビジョン・計画目標等 設定までの考え方

審議事項に対する質問

A委員：・優先して充実させるものとして相談体制の充実の中で「身近なところで相談でき窓口」という回答が寄せられていますが、「身近なところ・・・」についてはどのようなところをイメージされているのでしょうか。今までと同じことをしていたのでは解決は難しいと考えます。

計画を策定することが目的にならないように、今後計画のモニタリングや見直しを毎年されていくことが必要と感じます

事務局：・基幹相談支援センターや計画相談支援事業所をイメージしていますが、その他の社会資源である地域活動支援センターもイメージしています。

承諾に付された意見

B委員：・今や障がいのある方が社会から隔絶されたような施設で暮らす、という時代ではありません。社会の中で生きがいを見つけ、仲間と楽しい毎日を過ごすことが日常となってきました。現に地域で暮らしている方々の5割近くの方がいざという時に入所を希望する真意はどこにあるのか？今迄の人間関係や社会参加の機会等を捨てて「施設」というケージに守られなければ基本的な生活支援体制が保持出来ないような不安が彼等の中にあるとしか言えません。今の地域が安心して暮らし続けることが出来ないという実感を障害当事者は勿論、家族の方も感じている、その現状が現れたアンケート結果だと感じました。

計画の骨子については概ね了解するところでありますが、今や障害福祉のエンジン役である相談支援体制については危機的状況であることには間違いなく、現任の相談支援専門員はかなり疲弊しております。施策1の(2)相談支援体制の充実に向けた取り組みについては事業

所任せにするのではなく、行政側も歩み寄りと具体的な指導を行うなどが計画に盛り込まれるのを期待するばかりです。

また施策5の「障がいのある人の自立的生活の支援」の(6)①移動支援の充実についてですが、山梨のように公共交通機関が発達していない地方では障がい者は移動障害者でもあるということを忘れてほしくありません。運転が出来ない、(経済的理由から)自家用車を保有していない、同居家族に依存している等の問題もありますし、特殊車両や同行支援を要する方も相当数いらっしゃいます。移動は社会参加するためには欠かせません。いくら沢山のサービスが地域に存在していてもアクセスできなければ機能しません。当事者とサービスを繋ぎ、当事者と社会を繋ぐ機能をどう強化するかは今後の課題と思われます。

甲府市が「障害のある人もない人も互いにつながり共に生きることが出来る社会」を目指すのであれば、障がいのある人達の目線で地域社会を見ることが出来るようになることが肝要かと思えます。

財政的にも厳しいとは承知しておりますが、数値目標に関しては達成可能な緩い数値を設定するのではなく、実際に必要な数値の検討をお願いしたいです。

資 料 :

- ・ 障害者福祉専門分科会計画部会委員名簿
- ・ 資料1 障がい者福祉計画の経過と目指すべき姿
- ・ 資料2 甲府市障がい者福祉計画 アンケート調査及び関係主体ヒアリングまとめ
- ・ 資料3 甲府市障がい者福祉計画 次期計画の策定ビジョン・計画目標等設定までの考え方
- ・ 資料4 甲府市障がい者福祉計画 新旧施策事業 対応一覧表
- ・ アンケート調査報告書
- ・ 関係主体ヒアリングで把握された課題
- ・ 別紙 書面審議承諾書 計画部会